

# 廃棄物の削減

全社で省資源活動に取り組むとともに、リサイクルを推進しています。最終処分量は、1990年度の24%まで削減。リサイクル率は1990年度の7.5%に対し、2005年度は29.1%まで高めることができました。

## ■ 分別・リサイクルの徹底に努めてきました

### フジヤマ工場の取り組み

廃棄物の削減については、排出源における質・量を的確に把握するとともに製造工程から生ずる各種廃棄物に対し分別、リサイクル化をはかりながら、なおかつ法律に基づき廃棄物処理専門業者に委託し、二次公害の発生しないよう適切な処置を講じています。

2006年度の実績については、業界の取り組み（日本製薬工業協会）及び当社の環境自主行動計画の取り組みについて、それぞれ共通な目標、『内容：最終処分量を、2010年度までに1990年度を基準に20%まで削減する。』を受け、フジヤマ工場としては、具体的な取り組みテーマとして廃棄物の最終処分量の削減に重点を置くことで『廃棄物ゼロエミッションの推進』を掲げ、2004年度のリサイクル率84%に対し、2006年度リサイクル率の目標を99.7%に設定し、その結果99.91%まで大幅に向上し、達成率100%の結果を出すことができ目標を達成しました。

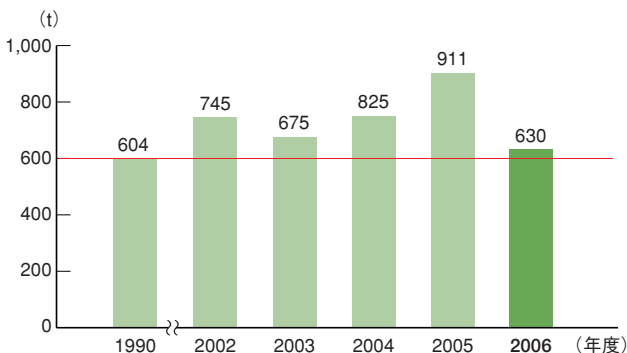
2007年度については、引き続き廃棄物の最終処分量の削減に重点をおき、取り組み中の『廃棄物ゼロエミッションの推進』について、2007年度を最終年度に位置付け、全廃棄物のリサイクル率を2007年度中に100%とする目標を掲げ、実行手段として従来より進めてきた、適正な分別をさらに徹底し、工場より排出される全廃棄物について、単純焼却及び埋立て処分のゼロ化を進めていき、限りなくリサイクル化していくことに努め、業界の取り組み及び当社の環境自主行動計画の目標達成を目指しながら、最終処分量の削減に繋がります。

### 城東工場の取り組み

2006年度の活動では、城東工場全体の取り組みとして、各種廃棄物排出量削減、最終処分量削減及びリサイクル化推進、分別排出量の計算、記録を徹底し、最終処分量削減量を1990年度比で2006年度には26.1%まで削減する目標を掲げておりましたが、22.8%まで削減することに成功しました。中でも廃医薬品削減のため、製剤課では収率のアップ、分別の徹底をはかり、2005年度比3%削減目標に対し17.3%の削減を達成しました。包装課では、一般ゴミ、紙屑の排出量の削減について分別の徹底、リサイクルの推進をすることにより、それぞれ2005年度比5%、10%の削減目標から、53.9%、57.8%の削減率となりました。品質試験課でも、廃医薬品、廃ガラス屑類の削減について分別の徹底、リサイクルの推進をすることにより、それぞれ2005年度比2%、の削減目標から、2%、8.4%の削減を達成しました。

2007年度の活動計画としては、2006年度同様に各種廃棄物の排出量の削減、最終処分量削減を中心に削減目標数値を掲げ取り組んでいきます。

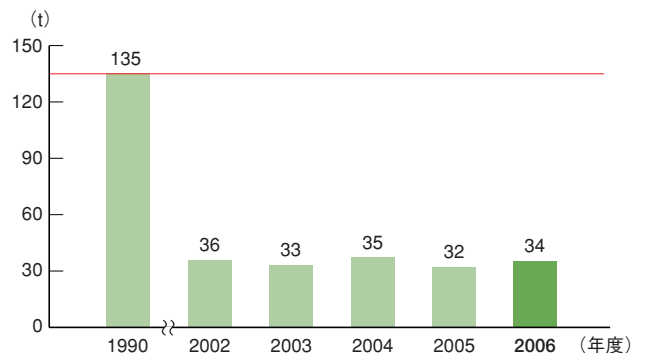
### ■ 廃棄物の発生量



※ 廃棄物発生量の集計サイト:

フジヤマ工場/城東工場/水無瀬研究所/福井研究所/筑波研究所(2003年竣工)/物流センター(中央・東日本)を含む

### ■ 最終処分量



### 水無瀬研究所の取り組み

水無瀬研究所では、蛍光管、乾電池、紙、ダンボール、瓶、廃油のリサイクルを引き続き実施した結果、2006年度リサイクル量は、112トンで、リサイクル率は39.6%となり昨年度に比べリサイクル率が約1.5%増となりました。

今後も発生量を抑えつつ引き続きリサイクルを積極的に行います。

### 福井研究所の取り組み

福井研究所では、紙類の分別回収を行い、紙、ダンボール等のリサイクル、及び金属類、廃油のリサイクルを実施し、2006年度のリサイクル量は31トンで、リサイクル率は37.3%となり、昨年度に比べリサイクル率が約4.5%増となりました。今後も発生量を抑えつつ、引き続きリサイクル率の向上を目指します。

### 筑波研究所の取り組み

筑波研究所では、紙、ダンボール、プラスチック容器のリサイクルを実施しました。2006年度のリサイクル量は4.0トンでリサイクル率は12.5%になっています。

今後も発生量を抑えつつ、新たなリサイクルに取り組み、リサイクル率の向上を目指します。

また、3つの研究所すべてにおいて、廃棄物処理委託業者の適正な選別と実態把握を的確に行うため、廃棄物処理委託業者を定期的に視察し、問題のないことを確認しました。

### ■ 事務所における紙のリサイクル

本社などにおいて、紙類の分別回収をおこなっています。3種類に分別し、それぞれPPC用紙、トイレットペーパー、ダンボール板紙に再生しています。

2006年度の実績は、廃棄量16トン、再生に回した量53.6トンで資源化率77.5%になりました。



リサイクルボックス

#### グリーン調達

2004年12月から全社的にココヨ(株)様の@officeという事務用品のインターネット購買を開始しました。このシステムでは、グリーンマークやエコマークに準拠した環境に配慮した事務用品のラインアップが充実しており、当社においても、これを用いてグリーン調達の推進に注力しています。事務用品購買の60%が環境配慮製品になってきています。



●エコマーク  
(財)日本環境協会の認定製品であることを示します。



●グリーンマーク  
(財)古紙再生推進センターが認定した古紙を原料とした製品であることを示します。



●@officeオリジナル環境マーク  
エコマーク基準、グリーンマーク基準のほかココヨ社の@office独自の環境基準をクリアした商品であることを示しています。

